

平成 28 年度 上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時：平成 29 年 2 月 8 日(水)13:30～14:30

開催場所：十和田市役所議会会議室

出席委員：高井伸二委員（座長）、石井淳夫委員、田中孝雄委員、菊地順三委員、沼尾大伸（沼尾紀恵子委員代理）、原子正徳委員、浄法寺朝生委員、櫻田一雅委員、佐々木一郎委員、上長根浅吉委員、一戸実委員、加賀精二委員、横手幸年委員 13 名

（欠席：加藤正志委員、熊野稔委員、川崎富康委員、高田誓昌委員、竹林秋雄委員、三上浩明委員、豊川大樹委員 7 名）

1 開会

2 中心市長挨拶

（十和田市長挨拶）

委員の皆様には、大変お忙しい中、当懇談会にご出席いただき誠にありがとうございます。

さて、昨今の人口減少や少子高齢化の中で、以前から上十三地域では各種連携をしながら取り組んできている経緯がございます。そこでこの地域を魅力ある地域にしていこうではないかということで、平成 24 年度に上十三地域に小坂町さんに入っただいて、10 市町村で上十三・十和田湖広域定住自立圏を形成したところがございます。そこで、この圏域の将来あるべき姿や連携して取り組むことをビジョンとしてまとめ、現在は 31 事業に取り組んでおります。

昨年度は、消費生活センターを連携して取り組み始め、また、十和田湖地域でございますが、小坂町さんと簡易水道を共同で取り組んでいるといった経緯がございます。今年度も、広域で上十三消防指令センターの共同運用を開始するなど、自治体間で連携しながら、より効率的な行政運営ということで、大きな成果が出ていると考えております。

本日の懇談会では、それぞれの事業の進捗状況をご確認いただくことが 1 つ、共生ビジョン事業の成果指標の設定による PDCA サイクルの構築など、今年度新たに共生ビジョンに定める内容について、幅広くそれぞれの立場でご意見をいただければ、ありがたいなと思っております。簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

（三沢市長挨拶）

委員の皆様には、大変ご多用の中にも関わらず、この懇談会に出席いただきまして、本当にありがとうございます。

これまで、定住自立圏の取り組みによりまして、色々な分野で自治体間の連携がなされ、大きな成果を上げているのではないかと考えております。先程、小山田市長からもお話しがございましたが、本日は、各事業の進捗状況をご確認いただくと

ともに、今年度新たに作る共生ビジョンのそれぞれの内容について、ご意見をいただきたく、どうか委員の皆様には、各分野におきまして、これまでの豊富な経験とともに、圏域住民の視点に立った忌憚のないご意見をいただければと思っております。最後になりますが、この懇談会が実り多いものとなりますよう祈念申し上げ、簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介

(事務局)

※ 委員名簿に基づき委員を紹介。

(座長挨拶)

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

先程も両市長から、ご説明がございましたけれども、この共生ビジョン事業は、平成24年に協定を結びまして、25年から29年まで動いているという事業でして、今年が4年目で来年が最終年度となります。

本日は、案件にございますように共生ビジョン事業の進捗状況の把握ということと、2番目がビジョンの変更ということでご議論をいただきます。いずれにしても来年度が最終年度ということでございますので、色んな意味で次のことを考えますと、最終年度を含めて、31事業を今後どうするかも含めて考えるということになるかと思えます。今日は、そこまでいかないかもしれませんが、進捗状況について事務局の方から説明を受けることとなりますが、約1時間よろしくお願いたします。

4 案件

(事務局)

※ **資料1**「上十三・十和田湖広域定住自立圏の概要」及びビジョン懇談会の論点を説明。

【質疑・意見等】

特になし。

案件1：共生ビジョン事業の進捗状況について

(事務局)

※ **資料2**「上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン事業進捗状況及び成果指標一覧表」に基づき、前回のビジョン懇談会以降に大きく進捗があった事業（広域観光会議の開催、広域観光振興推進事業、消防指令業務共同運用等事業、簡易水道の共同利用、消費生活相談事業）の取組状況を説明。

【質疑・意見等】

(委員)

観光ガイドブック「るるぶ特別編集上十三」の発行数と、どのように配布してPRしたのでしょうか。

(事務局)

るるぶ特別編集は、7万部製作してございます。そのうち、4万部をB-1グラ
ンプリ来場者へ配布いたしました。残りにつきましては、関係市町村に配布して
ございます。

(委員)

分かりました。ありがとうございます。

(座長)

ほかにございますか。

(委員)

小坂町休平地区の簡易水道施設の老朽化について、施設の建設費に結構費用が
掛かるということで伺っていましたが、すぐ側に青森県の配管がございまして、
県境を越えて繋いでいただいて、大変ありがたく思っております。これも、定住
自立圏によってできたのではないかと思っております。

(座長)

ご説明ありがとうございます。ほかにございますか。

(委員)

消費生活相談件数の総数が473件となっておりますけど、横浜町の現在の件数
は、分かりますでしょうか。

(事務局)

横浜町様からの相談につきましては、平成27年度は、8件ございました。平成
28年度は、4月から10月まで相談はございませんでした。

(委員)

分かりました。

(座長)

これは、十和田市と三沢市に消費生活センターがあって、圏域の住民がどちら
に相談しても良いのですか。

(事務局)

一応エリアを分けてはいますが、エリア外からの問い合わせに対しても対応す
るようしております。

(座長)

分かりました。ほかに何かございますか。

(委員)

成果指標について、観光入込客数とありますが、これは、域内の来場者もカウントしているのか、それとも域外からの来場者を想定しているのか、どちらなのでしょう。

(事務局)

数字の根拠ですけれども、青森県観光入込客統計を利用しておりまして、実際は、圏域内外を問わず、10市町村の観光入込客を足し合わせたものとなっております。

(委員)

これから域内の人口が減っていく中で、観光でどう振興していくかというのを考えたときに、域内から沢山くるというより、域外からどれ位来ているか、増やしていくということが重要だと思います。また、特産品についても、どれだけ来たかというよりも、消費したかということが重要になると思うので、最低限、域外からの入込数、もし可能であれば消費額を把握すれば継続的にPDCAを回していけると思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。参考とさせていただきます。

(座長)

観光入込客数は、どのようにカウントされているのでしょうか。実数ではなく延べ数ですよ。

(事務局)

観光入込客数につきましては、各市町村の観光拠点の入込数、延べ人数となっております。

(座長)

圏内か圏外か識別するのは、中々難しいですね。

(事務局)

アンケートを取りながらデータを取る方法もごさいますが、ポイント的なアンケートにつきましては、相対的な流れが見えてこないというようなこともございしますので、今回のご意見を参考としながら、どのような形で観光入込数のデータ収集をすれば良いかも含めて検討していきたいと考えております。

(座長)

そうですね。選挙の出口調査のように、ピンポイントでどこかでカウントして、それで経済への影響がどれ位かというように推測するしかないですね。

ビジョンの最終年度では、共生ビジョン懇談会の役割として、これらの事業に対する評価というものもしていくのでしょうか。

(事務局)

ビジョン懇談会では、委員の皆様にご協議していただく場としております。評価につきましては、どのような形でいただくか検討させていただき、皆様にお願ひすることもあろうかと思われまひます。

(座長)

分かりました。先程 PDCA の話が出て、5 年目にどうされるかというところに興味がありました。そのほか、ござひまひすか。

(委員)

これらの事業は、完結するものではないと思うのですけれども、取組が順調なもの、まだ難しいというものと区分けはできてひまひすか。

(事務局)

ご指摘のとおり、全 31 事業ござひまひして、本日ご報告したように順調に進んでいる取組もあれば、中には、研究・検討の段階から進んでいないというものもござひまひす。進んでいない部分に関しまひしても、第 2 次共生ビジョンに向けて、前に進めるように調整してまひりたいと考えてござひまひす。

(座長)

広域でいくつかの市町村が連携してやっていますので、全てうまくいくとは限りまひせんし、それぞれが全て満足いくものとは限りまひせんし、中々この後が難しいですよね。

案件 2：共生ビジョンの変更について

(事務局)

※ **資料 3**「上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョンの変更について」、**資料 3-1**「上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン平成 28 年度変更内容一覧表」、**資料 3-2**「上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン変更案」に基づき説明。

【質疑・意見等】

(座長)

定住自立圏推進要綱が変更になったので、PDCA サイクルを回す。ビジョンに評価をするということが記載されて、平成 29 年度、計画の最終年度となりますが、基本的には、また 30 年度から 34 年度まで次の 5 ヶ年を動かすということですよ。

(事務局)

そのとおりです。

(座長)

その際には、この指標が重要になってくるということですよ。要するに指標がないと外部評価ができないということですよ。

ご意見いかがですよ。

(委員)

青い森鉄道利用促進等事業の成果指標の現状値が目標値を超えているのですけれども、事業として既に成功しているということなのか、これで良いということなのでしょうか。

(事務局)

青い森鉄道利用者の客層は、高校生が多く、少子化の影響もありまして、年々通学する子どもたちが減っているということもありまして、目標値の方もそれに合わせて低くしたものでございます。

(座長)

よろしいですか。

(委員)

はい。

(座長)

変な話ですけれども、常に目標値を高くするというのが正しいかどうか分からないですよ。目標値を高くして評価した場合、評価が全て未達で終わってしまうのですよね。少子化とか色んなことを考えたときには、それに見合った形で、ここまで減るけれども、それよりも少し頑張ろうね、という数値設定にしないと、全部未達になってしまうのですよね。その辺り、これから難しいなと私も思いました。観光客のように外部から来る人は増えるかもしれませんが、中で回す分には、必ずしも増えれば良いというものでもないという点もあるかもしれません。

1つ思ったのが、これだけ人口減少が進んで、行政関係の職員や組織の数も減らさざるを得ないような財政環境が来ますよね。そういった将来予測値等というのは出しているのでしょうか。何をお話ししたいかと言いますと、人口が減少して行政も小さくなるけれども、10市町村が連携して上手く噛み合わせることによって従前の機能を維持するというのが、この定住自立圏の発想ですよ。その辺り、当事者がというのは難しいですけど、組織のやりくりも考えていかれると良いですし、先程のご質問のように、成果指標に現状の体制を維持すると書いてございますけれども、中々、現状の体制を維持することも難しくなる可能性も十分出てきます。そこは、他所と足し算して何とかしましょうという発想もあるかなと。そうすれば、定住自立圏のネットワークが効いているということになりますよね。その辺りもう少し何か知恵を出した方が良いのかなと思います。

(事務局)

各市町村の職員数につきましては、職員適正化管理計画に基づいた中での管理運営を行っております。また、これから公共施設等の再編整理を実施する中で、行政サービスを低下させることなく、均一化に取り組むためには、市町村連携、協力が必要であるという位置づけの中で定住自立圏が形成されているということを確認してございますので、ご理解いただきたいと存じます。

(座長)

分かりました。ただいま、ビジョンの変更点について詳細なご説明がございましたけれども、ご理解いただけましたでしょうか。要するに、評価をするためには必ず指標が要るということで、今回、その指標を提示させていただいたということです。よろしいでしょうか。

～ 「はい」という声あり ～

(座長)

ありがとうございます。これを以て次回にまた評価をしていただいて、次のステップに繋げていくということになろうかと思えます。

5 その他

(事務局)

- ・ 現行の共生ビジョンは、平成 29 年度を以て計画期間が終了となる。現在、関係市町村において第 2 次共生ビジョンの策定に向けた取り組みを進めており、ビジョン案がかたまり次第、ビジョン懇談会でご意見をいただきたいと考えている。
- ・ ビジョン懇談会委員の任期は、今月 18 日を以て終了となるが、再任の際には、ご協力を賜りたい。

以上